

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターヒツジ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 21日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2026年 2月 21日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	受容的交流理論に基づき、袖ヶ浦市を中心に君津保健福祉圏域および市原市在住の発達に気になる未就学児童に対し、集団生活の中で必要な基本的な生活習慣が身につけられるようになり家庭以外で、安心・安全な場所で「人間関係と自我を育てる療育実践」を行っている。	・利用者の行動特徴や発達の段階に応じてグループ編成を行いそれぞれの状態に応じた支援を行っている。 ・保護者との個別面談を通し、子どもの状態(園での様子)や発達段階、障害特性等の共通認識を確認し合い、子育てに自信や見通しが持てるように必要な情報提供を行った。	通所と入所が一体となって事業の運営を行ってきた。のびろ学園に入所している児童が低年齢化していることや緊急一時で保護された未就学児童に対して児童発達支援センターにて療育を受ける機会を提供した。
2	専門的な療育体制の構築を目指し、言語聴覚士や臨床心理士を配置し療育支援の向上を目指している。	・多様化した家族の状況やニーズを把握し、きめ細かい対応に努めている。 ・保育園や他機関を利用している児童については関係者会議に参加し情報共有に努めた。	保護者からの相談内容を踏まえ適切な支援を行うため、個別支援計画を作成し、保護者に対応の仕方等、アドバイスをしたり、連絡帳でのやり取りを実施した。また、年3回の個別面談と、年3回の親子参加行事を実施した。
3	地域療育支援室バンダでは、千葉県障害児等療育支援事業の契約及び袖ヶ浦市・君津市・富津市と療育支援事業の契約を行い事業を実施している。	・袖ヶ浦市や木更津市の保育所などの巡回訪問を積極的に行い、発達が気になる幼児への対応の仕方等アドバイスを行った。 ・就学前に適切なサポートが実施できるよう袖ヶ浦市の要請を受け年長児童を対象に言語聴覚士による言語の発達検査を実施した。	袖ヶ浦市については嬉泉福祉交流センター敷地内に療育室を設置し地域の未就学児童に言語・心理・運動等の専門的療育を実施した。また、依頼に基づき、近隣の保育所へ施設指導支援を実施した。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の場所が、袖ヶ浦市の郊外にあり、公共交通機関が利用できず、送迎バスや送迎用自家用車が必要なことと、運転手の確保も課題となっている。	療育支援を行うスタッフの確保が、年々厳しくなってきている。必要な人材(支援者、保育士、運転手等)の安定的確保が急務。	近年、法人のホームページなどを活用し、事業所の広報活動、リクルート活動等を積極的に行っている。
2	事業所の建物が、別目的で建てられた既存の建物をリフォームして利用しているため、保育環境としては不都合な箇所がいくつかある。	建物の建て替えを計画的に進めていくと同時に、必要な財源の確保が必要。	10年先を見越した中期計画を策定中。
3	インクルージョンの推進に関しては、他事業所や地域との交流の機会が少ない。	学校や幼稚園、保育所との連携はあるが、地域の他の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスとの交流の機会はない。	関係のある行政や、学校、幼稚園等の教育機関、その他療育機関等との連携を深め、情報共有を図り、個々の利用者に最適な支援を提供できるよう協力体制を構築していく。